



廃棄物学会ニュース

The Japan Society of Waste Management Experts
(学会ニュース 100 号記念号)

No.100
廃棄物学会

学会ニュース100号を振り返って

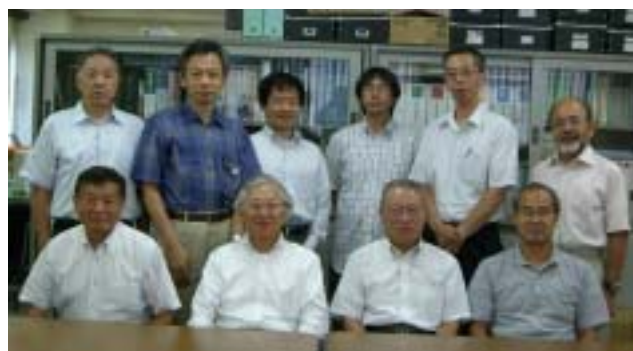
－記念座談会を開催－

企画運営委員会広報部会長 片柳健一

1. はじめに

廃棄物学会の情報を迅速・的確に会員の皆様に提供する手段として、1990 年 5 月に廃棄物学会ニュース（以下「学会ニュース」と記す。）第 1 号を発刊してから、今回で 100 号の発刊を迎えました。そこで、発刊を担当している広報部会では、学会ニュースの歴史と当初発刊を担当していた事務局会議（学会ニュースを編集するとともに事務局業務を緑の下でサポートしていた非公式委員会）について記録にとどめて、会員に知っていただくとともに、今後の学会広報のあり方について議論する趣旨で、平成 19 年 8 月 8 日（水）午後 2 時から 5 時まで座談会を開催しました。

座談会には、学会設立準備段階から事務局会議を組織し、設立後は総務委員長として事務局業務をリードされてきた事務局会議田中勝初代座長、中明和 2 代目座長、片柳健一 3 代目座長（現広報部会長）、当初からの事務局会議メンバーなど 10 名の方が出席しました。



出席者（前列左から敬称略）：片柳健一、田中勝、中明和、鈴木明郎、（後列左から）松村治夫、谷川昇、香川智紀、山田正人、松本礼史、中西正義

2. 座談会の内容

座談会では、学会ニュースの生い立ちと事務局会議について、次いで学会ニュースの変遷、学会ニュース発刊の現状、ホームページへの掲載、学会ニュースの今後のあり方や広報活動の課題の順で話を進めました。

座談会の全ての内容を掲載できませんので、要旨を掲載し、学会ニュースが果たしてきた役割をご理解いただきたいと存じます。

(1) 学会ニュースと事務局会議

最初に、田中初代座長から廃棄物学会設立準備、事

務局会議の創設、学会ニュースの発刊に至った経緯等について詳細なお話をいただきました。その要約は以下のとおりです。

1987 年に廃棄物学会設立に向けた準備が開始され、1989 年に設立準備会が正式に発足しました。その後、設立準備会は、設立会開催に向けての本格的な準備を始めるため、事務局会議に名称を改め、第 1 回が 1990 年 1 月に国立公衆衛生院で開催されました。この事務局会議のメンバーは、頻繁に会議を開催することもあり、会議に出席しやすい東京周辺の設立準備会のメンバーの方をお願いしました。学会設立前の事務局会議では、事務所の管理、会員募集・管理、会計管理、広報などの業務を分担し、1990 年 3 月 27 日に学士会館で学会設立総会を開催する運びとなりました。

学会設立後、初代総務委員長に就任した田中初代座長は、事務局の活動を早く軌道に乗せるために、事務局をサポートする組織として、新たな事務局会議を設け、1990 年 4 月から活動を開始しました。（事務局会議第一期メンバー 表 1 参照）

当初の事務局会議は、学会ニュースの作成、事務所のコンピュータシステムの整備、会員名簿の作成、会員募集のためのパンフレット作成、理事会資料作成などの業務を行いました。今では、楽しい思い出ですが、当時は皆さん本業を抱えつつ結構大変だったと思います。その後、職員の補充とコンピューターの導入などにより、事務局運営が軌道に乗ってきたので、2000 年 5 月から事務局サポートは、学会ニュースの編集を主とすることとし、名称も広報委員会へと変更され、座長は中氏にバトンタッチされました。

表 1 事務局会議第一期メンバー

	氏 名	所 属
座長 委員	田中 勝	国立公衆衛生院
	杉島和三郎	菱日エンジニアリング(株)
	中 明和	(株)タクマ
	古市 徹	国立公衆衛生院
	占部 武生	東京都清掃研究所
	片柳 健一	(株)環境管理センター
	藤吉 秀昭	(財)日本環境衛生センター
	鈴木 明郎	石川島播磨重工業(株)
	香川 智紀	(社)全国産業廃棄物連合会
	宮崎 正信	国立公衆衛生院

(敬称略・順不同)

その後、2004 年度の学会組織変更によって、企画運営委員会の下に現広報部会が組織され、片柳部会長を含めた 5 人のメンバーで広報活動を行なっています。部会の業務内容は、従来の学会ニュースの発刊に加え、学会ホームページの運営・管理も行なうこととなりました。

(2) 学会ニュースの変遷

学会ニュースを学会設立直後から発刊し、継続してきたのは、学会活動や行事についての情報を会員に迅速に提供することが、何よりも重要であるとの認識からでした。当初の学会ニュースは、原稿を事務局職員がワープロで作成し、印刷は外部へ委託して発刊していました。創刊号では、第 1 回廃棄物学会の研究発表申込案内や、学会誌・学会論文誌の編集基本方針等が掲載されていますが、構成などは手作りのニュースという印象を受けます。(創刊号写真参照)



写真 廃棄物学会ニュース創刊号の抜粋

学会ニュースは、内容をより充実するため、試行錯誤を繰り返していきました。また、発刊回数も 1992 年まではおおむね年 5 回でしたが、1993 年以降は現在のように年 6 回になりました。

構成は、学会の年間行事の定例化とともに、No.41 号から現在に近いものになり、それまで記事内容などで使い分けていた書き方や段構成を横書き、2 段構成に決めました。事務局便り(編集後記)は、当初は主に事務局職員が担当していましたが、No.35 号から事務局会議メンバーが持ち回りで担当するようになり、事務局の状況やその時々廃棄物問題に関連する出来事が書かれ、読み返すと懐かしい思い出が蘇ってきます。No.47 号からは、学会ニュースは学会ホームページにも掲載されるようになりました。そして、2004 年 4 月から印刷や発送の諸経費の節減を図るべく、学会ニュースの発刊を、ホームページへの掲載を基本とする方針に改め、No.81 号から実施しました。

(3) 学会ニュースとホームページ

現在、学会ニュースはホームページへの掲載を基本に発刊されています。また、今後の学会広報活動では、学会ホームページの役割がより重要になると思われ

表 2 学会ニュースの主な変遷

号数	主 な 内 容 等
1	設立総会・記念式典、第 1 回廃棄物学会研究発表会開催案内、学会誌・学会論文誌の基本方針等
12	トップページ廃棄物学会ニュース名欄にロゴマーク登場
18	年会開催案内・プログラムを別冊として作成(以降継続)
26	(阪神淡路大震災関連記事掲載)
27	(廃棄物学会事務局移転記事掲載[現在地の豊前屋ビルへ])
41	各ページの記事について、完全 2 段組とする
49	学会ニュース発刊 10 年
50	廃棄物学会設立 10 周年記念事業、行事報告、会議案内等
55	廃棄物学会ニュースの 10 年特集
67	廃棄物学会ホームページ正式運用
81	廃棄物学会ニュースの発信方法の変更
98	メールニュース配信

ますので、ホームページの開設について紹介します。

学会ホームページ開設は、若手の会の 1996 年の会合での話が発端となり、以後若手の会においてホームページ開設の検討と準備が進みました。2000 年に有志により、文部省学術情報センター(NACSIS)のシステムを利用して運用が開始されました。この間、提供する情報の選択判断、事務局業務への新たな負担の懸念等の課題が出されました。その後、これらの課題をクリアーし、2002 年には、現在も使用しているドメイン名(jswme.gr.jp)を取得し、サーバーシステムも、各委員会や地方支部が単独で管理できる体制に整備し、正式に開設することとなりました。

学会の実情から、ある責任者が一元的にホームページを管理・運用することは困難であり、委員会や支部が独自の判断で情報を掲載できる分権システムを採用しました。現在、広報部会では、必要に応じてサーバーの容量を増やしたり、運用上の問題が生じた場合の対応を行っています。このような状況の中で、学会ニュースと英文ニューズレターが電子発信されています。

今年度から新しい広報手段として、学会ニュース最新号の発刊、イベント情報などのホームページ更新情報を希望する会員にメールで配信する、メールニュースサービスを開始しました。このサービスの利用には配信先メールアドレスの登録が必要です。

(4) 学会ニュースの役割と今後のあり方

学会ニュースの今後の役割や内容について以下のような意見が出されました。

- ①学会誌、ホームページなどの他の広報媒体との役割分担を明確化し、必要に応じて学会誌担当の編集委員会との調整を行い、改善を図る。
- ②学会法人化などの重要プロジェクトの進捗情報を、学会ニュースに定期的に掲載する。
- ③理事会や委員会に関する情報を、学会ニュースで提供する。

また、学会広報活動全般の課題については、以下のような意見が出されました。

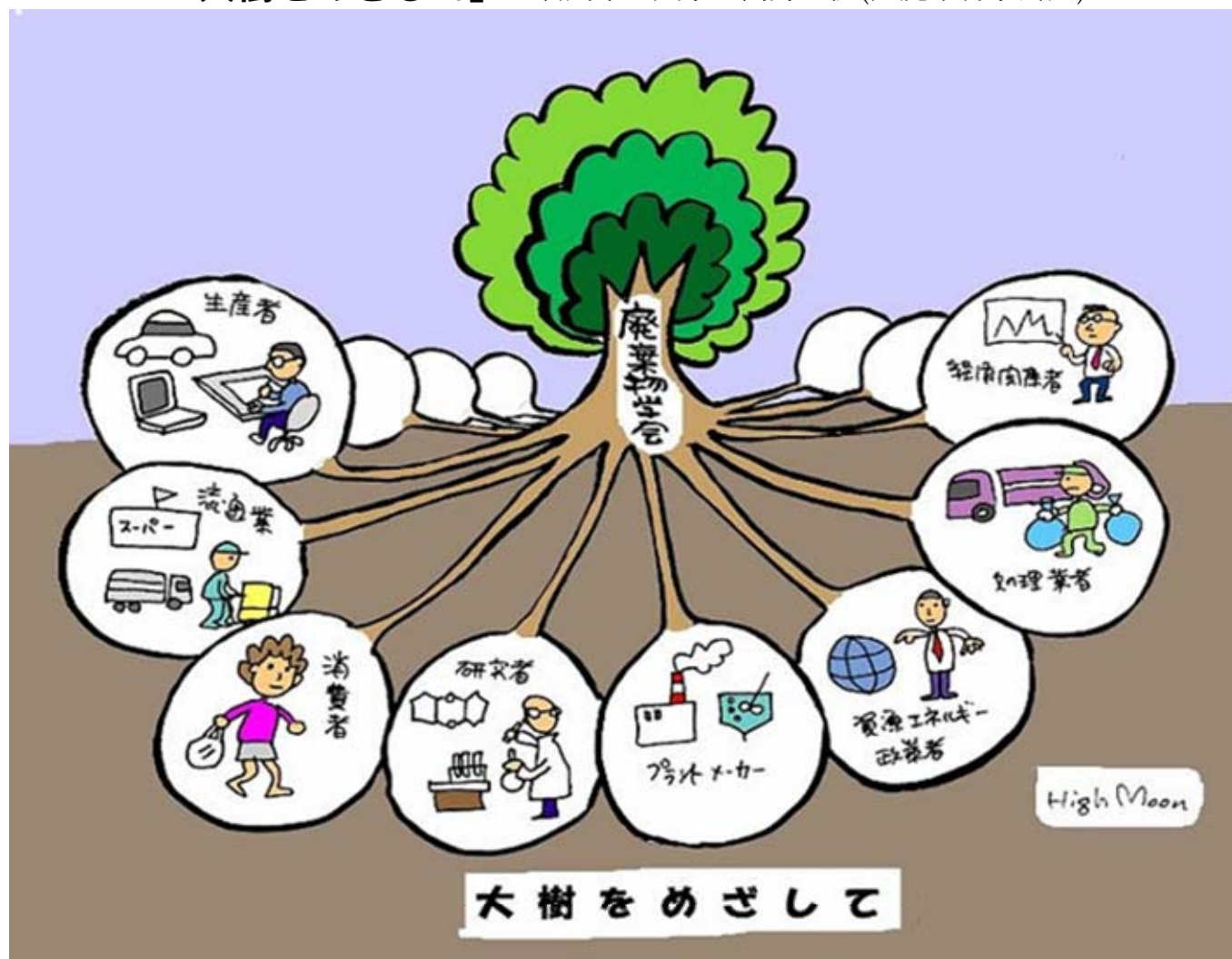
- ①今年度から開始したメールニュース配信サービスのユーザーを増やすとともに、サービス内容の充実を図る。
- ②会員の特典を充実するために、会員だけが受けられる情報提供システム（例えば、パスワードを学会誌に定期的に更新掲載し、会員だけが情報提供サイトにアクセスできるシステム）の構築を、今後検討する必要がある。
- ③他学会なども行っている廃棄物に関する情報やイベ

ント企画情報の提供やホームページのリンクを積極的に行い、情報の共有化を促進する。

- ④今後、学会の広報媒体の特性検討や、会員のニーズを把握し、期待される効果を考慮して、広報媒体の変更、メールニュースのような新しい広報手段を創設する。

今後多くの分野の方々に廃棄物学会を理解していただき、協力と参加を求めていくために、また、法人化を視野に入れて活動を展開している今日にあっては、学会ニュースをさらに充実させる必要があることを確認して、約3時間に及んだ座談会を終了しました。

「大樹をめざして」 石川県立大学 高月 紘(元廃棄物学会長)



まずは学会ニュース 100 号おめでとうございます。廃棄物学会と言う木が発芽したのは、今から 17 年前の 1990 年でしたから、現在はすこしずつ成長し、さらに大きな木に育つべく、栄養分をどんどん根から吸収しようとしているところだと思います。これまでは、廃棄物学会の根は、ほとんどが廃棄物処理関係の研究者、プラントメーカー、処理業界につながっているだけでした。しかし、「人間が造った物は必ずいつか廃棄物になる」という原理からすると、廃棄物の元であるあらゆる生産物を造る人、その製品を扱う流通業者、そしてそれを使う消費者が、廃棄物問題に深く関わりを持っているはずです。また、最近の廃棄物問題の解決には、地球の資源やエネルギー問題の視点や経済的対応策が不可欠です。

その意味で、これからの廃棄物学会はもっと広範囲の関係者に関心を持ってもらい、参画してもらうことが大切だと思います。そうすれば、やがて廃棄物学会は広くしっかりと根を張った大樹となり、循環型社会、持続可能な社会に必要な知的資源を還元してくれることと思います。そんな思いを込めて、イラストを作成してみました。

中国四国支部総会・講演会・見学会開催報告



東北支部総会・講演会開催報告

バイオガスプラント見学会開催報告

北海道支部主催で十勝支庁鹿追町のバイオガスプラントの見学会が開催され、28名の参加があった。

十勝支庁は、森林面積が多いことや農業経営が盛んなことから、木質ペレットの製造や家畜ふん尿を利用したバイオガスプラントの整備、また規格外農作物からバイオエタノール等のバイオ燃料製造に着手するなど、地域の特性を生かしたバイオマスの利活用に積極的に取り組んでいる。

今回訪れた鹿追町は基幹産業が農業で、酪農経営と畑作経営を主体として営んでおり、ここで整備したバイオガスプラントは、十勝支庁で初めて複数の農家から原料を受け入れる「集中型」のプラントであった。

このプラントは、敷地面積は1.3ha、乳牛約1,300頭のふん尿を中心に処理能力94.8t/日の規模を有しており、バイオガスを利用して発電を行うほか、町内の酪農家と畑作農家25戸では、バイオガスの製造に併せて発生する消化液と隣接した肥舎で生産した堆肥の農地還元によりバイオマス資源を有効利用した循環型農業を目指している。

今回の見学会は、片道約200kmを1日で往復する行程であったため、昼食はバスの中で食べるなどハードスケジュールであった。

現地での限られた時間の中で、実際に現場で説明を聞きながら施設の見学ができたため、事業に対する理解が一層深められ、参加者から興味深い質問が多数出て有意義な見学会となった。

(北海道支部 田畑寿幸 記)



平成19年度廃棄物学会賞候補者募集

廃棄物学会表彰規定に基づき、平成19年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたします。下記要項により、奮って推薦応募されますようお願いいたします。

推薦要項

1. 表彰の種別：

1) 廃棄物学会大賞

廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な功績があった者

2) 廃棄物学会功績賞

本会の運営に顕著な功績があった者

3) 廃棄物学会有功賞

廃棄物学に係わる顕著な社会的貢献があった者

4) 廃棄物学会論文賞

廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

5) 廃棄物学会著作賞

廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

6) 廃棄物学会奨励賞

廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者

2. 受賞候補者の資格：廃棄物学会賞受賞候補対象者

は、個人又はグループ及び団体とする。個人の場合は原則として本会会員とし、グループ(5名以内)の場合は、グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則として、本会の公益会員及び賛助会員とする。

3. 候補の範囲：表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼり、原則として2年以内に功績又は業績をあげた者とする。廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間に制約をおかない。

4. 推薦の制約：同一の候補者に対して、同一の推薦者が、2つ以上の賞の候補として推薦することは認めない。

5. 応募方法：本会正会員3名の推薦によるものとする。

6. 表彰の方法：表彰審査委員会では慎重に審査の上、入賞者には表彰状および記念品を贈呈する。

7. 表彰の時期：表彰は平成20年度廃棄物学会定期総会において行う。

8. 提出書類：申請には本会所定の廃棄物学会賞推薦書様式に従って必要事項を記載し、1件につき正1通、副2通(コピーで可)の計3通を提出する。

9. 提出締切日：平成19年11月30日(金) 必着

10. 推薦書の請求・提出・問合せ先：
廃棄物学会事務局 表彰担当

【お知らせ】

第3回アジア太平洋廃棄物専門家会議のお知らせ

アジア太平洋廃棄物専門家会議は、アジア・太平洋諸島地域における廃棄物の適正処理と3Rを推進する専門家ネットワークの形成を目的に各国・地域の専門家を招聘し、一昨年10月に東京で第1回を開催して「MOTTAINAI宣言」を合意し、廃棄物学会が事務局となってネットワーク形成に貢献することが確認されました。第2回は昨年11月に北九州で開催され、会議の名称をSWAPI(Society of Solid Waste Management Experts in Asia and Pacific Islands)と決めました。第3回会議と公開セミナーを、下記のとおり開催いたします。

記

日時：2007年11月7日(水)～9日(金)

場所：岡山国際交流センター国際会議場

主催：第3回アジア太平洋廃棄物専門家会議実行委員会

使用言語：英語(一部同時通訳を予定)

公開セミナープログラム(暫定)

11月7日(水) 14:00～18:00

セッション1：各国における廃棄物管理の現状

セッション2：廃棄物管理の最近の課題(1)

11月8日(木) 9:30～18:00

セッション3：廃棄物管理の最近の課題(2)

セッション4：アジア太平洋地域の国際資源循環

セッション5：廃棄物量の把握と改善方法

(ビジネス・メッセ：岡山発の3R技術を同時開催)

参加費：無料

連絡先：実行委員会事務局

((財)地球環境戦略研究機関(IGES)北九州事務所内)

TEL: 093-513-3711 FAX: 093-513-3712

E-mail: expert-meeting@iges.or.jp

次号(学会ニュース No.101)は11月1日発行予定です。

会員状況

H19.7.31 現在
()内は、H19.4.1以降の増減

正会員	3,106 (-94)
学生会員	322 (24)
外国人会員(DM)	26 (2)
登録団体市民会員	5 (1)
公益会員	105 (-1)
賛助会員	149 (-2)
計	3,713 (-70)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.100 平成19年9月14日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

http://www.jswme.gr.jp



印刷媒体は古紙配合率100%再生紙を使用しています

<JSWME Newsletter No.61(July)>

英文ニューズレター第61号が発行されました。

(主要目次)

日本のODA：ウランバートル市における廃棄物管理改善調査

Waste to Energy in Tokyo：プラスチック類のサーマルリサイクル

日韓交流事業：韓国廃棄物学会研究発表会への参加報告

Newsletterは電子配信のみとなっています。

最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます。

Contents of JSWME NL No.61

1 Dear Waste Management Experts

2 Japan's ODA on SWM:

- JICA Development Study for Solid Waste Management Plan for Ulaanbaatar City in Mongolia -

3 Waste-to-Energy in Tokyo

- Thermal Recycling of Plastics -

4 Korea Society of Waste Management Participation Report

5 Cartoons by High Moon:

"Hello, I want to rush to order the stocks of motorboats and prefabs"

☆☆事務局だより☆☆

学会ニュースが100号を迎えました。私自身は、ニュースに全体のおよそ5分の1の期間に関わっただけですが、それ以前はホームページ開設のお手伝いをしておりました。

初代の試行サーバは、室蘭工大の研究室に設置していたMacintoshでした。その後、NACSISに移りましたが、開設後、かなり早い段階でYahoo!に登録され、アクセスが増えました。学会誌のバックナンバー目次情報や年会のプログラム掲載等、有益な情報や、up-to-dateな情報の充実に寄与したのではないかと思います。ボランティアで、ページ作成や情報提供に協力いただいた皆様に感謝致します。

座談会記事中に、47号から学会ニュースをホームページ掲載とありますが、当時はhtml形式で、写真と本文を掲載していました。現在のように、印刷版と内容のpdfファイルを作成するようになったのは、59号からです(59号以降の学会ニュースは、ホームページに掲載していますので、ご覧いただけます)。

今後とも、学会ニュースとホームページをよろしくお願いします。(松本礼史 記)

第18回廃棄物学会研究発表会での施設見学会の募集は、定員に達したため終了いたしました。ご応募ありがとうございました。